

小児科

(スタッフ)

院長	井上 敏郎
部長	大野 拓郎
部長(地域医療部)	糸長 伸能 (2020. 3月まで)
副部長	岩松 浩子
	塩穴 真一 (地域医療部副部長兼任)
医師	川口 直樹
－小児科専攻医－	
当院プログラム	岩崎 智裕 (2020. 4月から9月まで)
	梶原 健太
大分大学プログラム	西林 隼人 (2020. 4月から)
九州大学プログラム	市地 さくら (2020.10月から)
	坂口 嘉彬 (2020.10月から)
	末松 真弥 (2020. 4月から)
	田中 惇史 (2020. 4月から9月まで)
	松田 あかり (2020.10月から)
	吉里 倫 (2020. 4月から10月まで)
後期研修医	佐藤 亮介 (2020. 3月まで)
	坂田 優 (2020. 3月まで)
	相良 優佳 (2020. 3月まで)
	長嶺 あかね (2020. 3月まで)

大野(部長)、糸長(地域医療部長兼;2020年4月から県庁医療政策課へ異動)、岩松(副部長)、塩穴(副部長)、川口、小児科専攻医:大分県立病院プログラム;岩崎(2020年4～9月)・梶原(2019年10月～)、大分大学プログラム;西林(2020年4月～)、九州大学プログラム;市地(2020年10月～)、坂口(2020年10月～)、末松(2020年4月～)、田中(2020年4～9月)、松田(2020年10月～)、吉里(2020年4～9月)の体制で診療を行いました。

(診療実績)

新型コロナウイルス感染症 pandemicにより入院・外来診療両方に甚大な影響が見られます。2020年の入院患者数は780例(図1)で昨年と比較するとマイナス341例と大幅に減少しました。疾患内訳を見ますと、生活様式の変化により新型コロナウイルス感染症以外のRSウイルス、ヒトメタニューモウイルスやインフルエンザ感染症が激減し、その結果として急性感染疾患である肺炎・気管支炎が激減しました。また、感染の影響を受けやすい気管支喘息での入院数も減少しています。有熱疾患の減少に伴い痙攣・てんかんによる入院も約半数に減少しました。川崎病も前年から13例減少でした(図2)。

年齢分布は1歳未満21.2%、1～2歳未満14.9%、2～5歳25.1%と例年通り0～5歳以下で例年通り約6割を占めました(図3)。成人科への移行は今後解決していかなければならない小児科にとって大きな課題ですが、本来成人科が対応する年齢の16歳以上の入院は前年比-4例の13例でした。

稼働指数は平均病床利用率71.4%(前年89.6%)、平均在院日数7.8日(前年6.7日)で、想像通り極めて低水準で推移しました。また、紹介率:平均116.8%(前年115.6%)、逆紹介率:平均248.6%(前年197.5%)と高いレベルで病診連携を維持することができました。院外の先生方の多大なご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

外科系[整形外科、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、泌尿器科、心臓血管外科(症例数順)]症例の小児科病棟入院管理患者数は103例(前年比-21例)でした(図4)。関係各科先生方のご協力に心から感謝致します。死亡患者数は痙攣重積型二相性脳症重症例の1例のみと少ない1年でしたが(表)、感染症減少が最大の要因と思われます。

当院で治療を完結できずに他施設に転院搬送を必要とした症例は、例年同様に大分県内で実施ができない先天性心疾患の手術症例(福岡市立こども病院、JCHO九州病院、九州大学病院)や悪性疾患(大分大学)が大部分を占めました。

(今後の方向性)

【診療基本方針】

これまで通り基幹病院として当院に求められている安定した二次・三次医療の提供と、益々の高い専門性の追求や幅広い領域における診療確立を通して、地域完結型医療提供を目指し、救命救急センター・周産期センターとも連携し診療内容の一層の充実に努めてまいります。また、コロナ禍により社会不安が高まり子どもの養育状況悪化が懸念されます。虐待件数についても近年増加の一途を辿っていますが、「病気を診る」という視点のみではなく、養育支援や心理的サポートなどの対応強化や児童虐待対応チーム(Child protection team: CPT)を中心とした、児童相談所、保健所や要保護児童対策地域協議会などの機関との連携をさらに強化することにより、「養育者」という観点からの子どもとの関わりを意識した診療の充実を目指していきたいと考えます。

【在宅・長期療養所移行支援】

急性期後の医療的ケアを要する症例に対する支援についても新生児科と共同で継続します。地域在宅支援サービスとの連携や共同訪問を通じた支援強化を図り、スムーズな在宅・長期療養型施設への療養移行の実現を目指します。

【移行期医療】

2019年12月1日に「成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療を切れ目なく提供するための施策を総合的に推進すること」を目的に成育基本法が施行されました。小児科としましても待ったなしの状況にあり、成人期に carry-over する小児慢性疾患の患者に対し、シームレスな医療提供が実現できるよう成人期医療へのトランジションシステムの構築に精力的に取り組んでいきたいと考えます。ご協力ご理解の程何卒よろしくお願い申し上げます。

【教育活動】

大分大学医学部臨床実習や大分県立看護科学大学 NP コース実習への協力・小児科専門研修のための専攻医受け入れ（平成 29 年度から基幹施設に認定）・小児循環器学会専門医修練施設群所属医療機関として小児循環器専門医育成などによる学生・若手医師教育を通じて今後も責務を果たしていきます。

【学術活動】

コロナ禍の煽りを受け学会発表活動についての中断を余儀なくされていましたが、論文については5編を発表する事ができました。新型コロナウイルス感染を意識しない生活にすぐに戻れるわけではありませんが、状況を慎重に見極めながら中断している国公立病院小児科合同症例検討会や各学会・研究会での発表を再開し、更なる医療の質の維持・向上に至誠に取り組んで参ります。

「全人的、かつ、Global standard な医療提供」を目標に、子どもたちの笑顔の絶えない社会実現のために少しでも貢献できるようにスタッフ一同全力で取り組んでまいります。

（文責：大野拓郎）

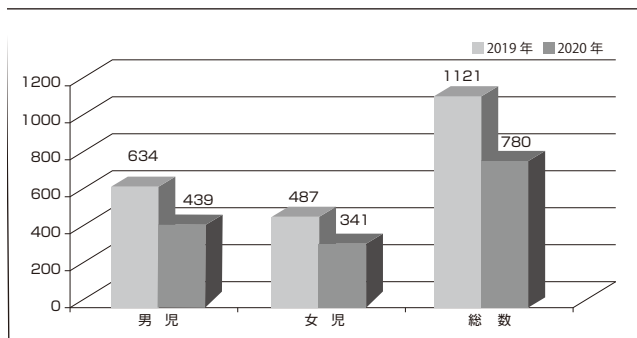


図1 入院患者数（単位：人）

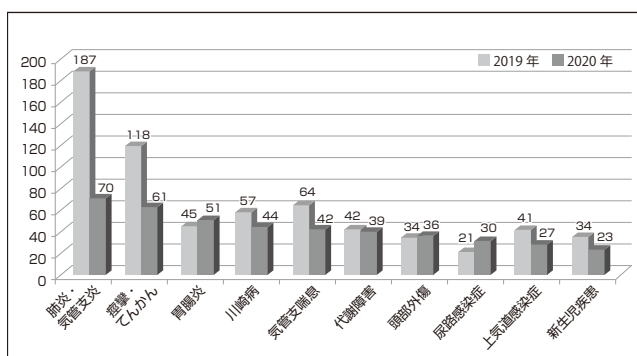


図2 入院患者頻度別上位10疾患（単位：例）

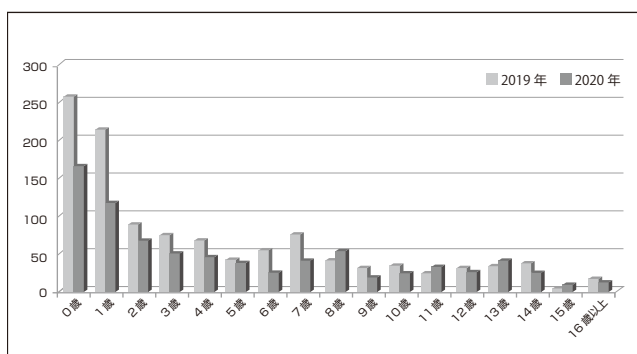


図3 年齢別入院患者数（単位：人）

表 小児科死亡症例

1	女児	0歳	剖検有り	来院時心肺停止
2	女児	8歳	剖検無し	痙攣重積型二相性急性脳症

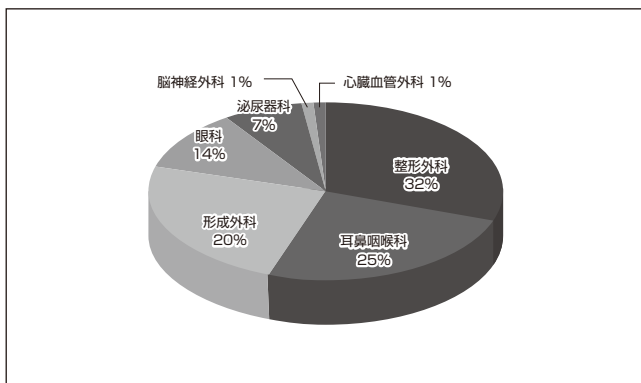


図4 外科系小児科管理入院患者割合 (単位：%)

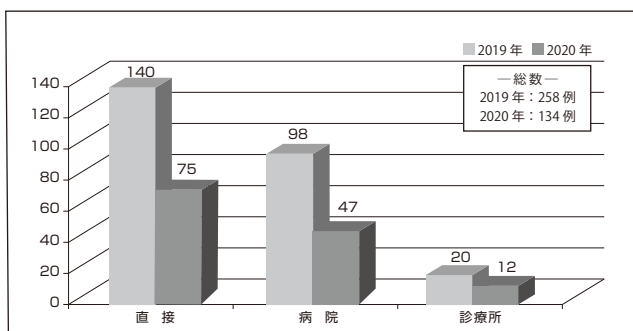


図5 救急車搬送紹介元別入院患者数 (単位：人)

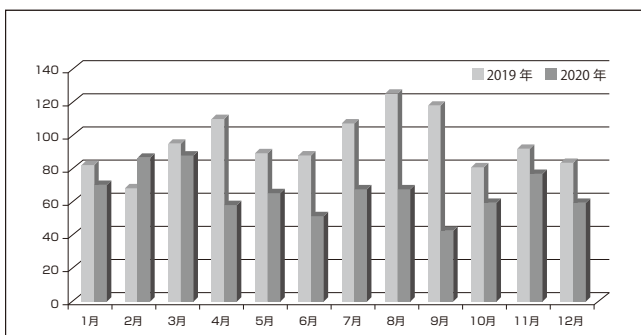


図6 月別退院患者数 (単位：人)

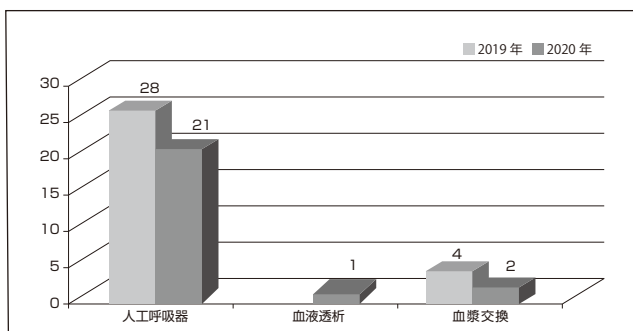


図7 集中治療 (単位：例)